

小学2年2組 音楽科学習指導案

指導者 能海麗美

オスティナートを重ねて歌ったり、聴き合ったりする活動を取り入れたことは、互いの歌声や伴奏を聴きながら、拍の流れにのって声を合わせて歌おうとする態度を育てるために有効であったか。

1 題材名 二つにわかれて歌おう ～2の2 かえるがっしょうだん～

2 題材のねらい

どのように歌えばよいか考えや願いをもちながら、拍の流れにのって声を合わせて輪唱をしたり、旋律にオスティナートを重ねて歌ったりする活動を通して、歌声が重なることの楽しさやおもしろさを感じながら歌うことができる。

3 授業の構想

(1) 本学級の子どもたちは、歌うことが好きである。「あそび歌をたのしもう」の学習では、『子犬のビンゴ』や『ロンドン橋』、『ずいずいずっころばし』などの遊び歌を楽しむために、みんなでそろって拍の流れにのって歌う活動をしてきた。

きょう、音がくの時間に『子犬のビンゴ』を歌いました。文字ぬきをして歌いました。「B, I, N, G, O」がボードからけされていって、ぬけているところがあっても思わず歌い出しそうになるので、ぬかしてうたうのはすこしむずかしかったけど、たのしかったです。はくにのって歌えたのでうれしかったです。(児童A)

児童Aのふりかえりからは、拍の流れにのって歌うことの難しさを感じながらも、抜かれた文字部分の拍をしっかりと感じ取り、「思わず歌い出しそうに」なるくらい拍の流れにのっていることが分かる。子どもたちは、遊び歌という楽しい活動を通して、拍の流れを感じ取りながら歌う力を身に付けてきたところである。また、伴奏の速度や強弱に変化を付け、それに合わせて歌う活動も取り入れることで、音楽を感覚的にとらえ、判断して表現することができるようになってきている。このように、基礎的な表現の能力を身に付けてきている子どもたちが、「歌うことって楽しいな。」「もっと歌いたいな。」と思えるような活動を取り入れ、さらに音楽の楽しさを味わわせたいと願っている。

(2) 本学校園音楽科では、子どもたちが美しい表現を追い求め、全体の響きに調和させて、音楽を味わいながら豊かに表現していく姿を目指し、特に「歌唱」の学習を中心に研究を進めている。初等部前期に当たる2年生の段階においては、「歌唱」分野での思考力・判断力・表現力を「自分の歌声や発音に気を付けて、歌詞の表す情景や気持ちを想像したり、拍の流れやフレーズを感じ取ったりして歌う力」と考えている。音楽活動の楽しさを味わいながら表現に必要な知識や技能を身に付けられるような活動を設定し、音楽を感覚的にとらえ、音楽やその演奏の楽しさを感じながら表現することができる力を育てていきたいと考えている。

本題材では、学習指導要領の内容A表現(1)エ「互いの歌声や伴奏を聴いて、声を合わせて歌うこと。」に関連させながら学習を進めていく。学習を展開するに当たっては、〔共通事項〕拍の流れとフレーズに重点を置いて進めるために、歌唱教材「かえるのがっしょう」(岡本敏明 日本語詞/ドイツ民謡)を選択した。「かえるのがっしょう」は、子どもたちになじみのある歌であり、手拍子で4拍子を打ちながら歌うことで、自然に拍の流れにのって歌うことができる楽曲である。また、2小節ごとに交互唱をしたり、輪唱をしたりすることで、フレーズを感じたり、お互いの声を意識して歌ったりすることが

できるようになる。そして、いろいろなオスティナートを旋律に重ねて歌うことで、声を合わせて歌うことのおもしろさや楽しさを感じながら、拍の流れにのって声を合わせて歌う力が育つと考える。

(3) 本題材の学習では、二つに分かれて歌うことを中心に学習活動を展開していく。第1次では、旋律を2小節ずらして輪唱をすることで、斉唱では味わうことのできない声の広がりを感じられるようにする。子ども同士が話し合いながら気付いたり考えたりした歌い方を試し、お互いの歌声や伴奏の音を聴きながら拍の流れにのって歌う場を設定することで、音楽の縦の線が揃い、二つの歌がきれいに重なることに気付くことができるようにしたい。

第2次では、3年生が歌う、輪唱とは違う新しい「かえるのがっしょう」に出合わせる。この音源は「ケロケロッ」「クワークワー」など、かえるの声を擬声化したものに、ド・ミ・ソの音程を付けて4拍の簡単なオスティナートとしたものを旋律に重ねて歌ったものとする。「かえるのがっしょう」の歌詞にもあり、子どもたちにとっても身近なかえるの声からイメージし、表現した4拍の「〇〇かえるの声」に、教師のリードで音程を付けたオスティナートをみんなで歌いながらつくるようにすることで、子どもたちは自然に覚えて歌うことができるようになるであろう。また、教師が提示したものではなく、自分たちでつくった「〇〇かえるの声」を重ねることで、子どもたちの意欲も高まると考える。これらをカードにしておき、その中から選んだ「〇〇かえるの声」を旋律に重ねることを繰り返し試していく中で、自分たちの「かえるのがっしょう」を、3年生のように拍の流れにのって声を合わせて歌うためにはどのように歌ったらいいかを考えさせたい。そこでは、「かえるの歌（旋律）」、「〇〇かえるの声（オスティナート）」、「聴き役」の三つの場を設定し、いろいろな場を選んで活動できるようにする。聴き役は、重ねた歌を聴いて感想を伝えたり、声を合わせるためのアドバイスをしたりする。それをもとに、全員で歌い方に気を付けて、声を合わせて歌えるようにする。

本時は、三つの場に分かれて「〇〇かえるの声」を旋律に重ねて歌い、聴き合う活動を設定する。その際、どんな風に歌ったらぴったり拍の流れに合う歌になるかを考えながら歌ったり、聴いたりできるようにする。そして、歌ってみてどうだったかを話したり、聴いた感想を伝えたりアドバイスをしたりする場を設けることで、声を合わせて歌うためにどんなことに気を付けたらよいかを考えるようにする。この時に気付いたことや考えたことを踏まえて、再びみんなで歌うことで、学級全体で声を合わせて歌えるようにしていく。この活動を繰り返すことで、いろいろな「〇〇かえるの声」を旋律に重ねて、拍の流れにのって声を合わせて歌う心地よさを味わい、楽しみながら友だちと声を合わせて歌うことができるようにしていきたい。

4 展開計画（全5時間 本時5／5）

次	主 な 学 習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学び合い）
1	「かえるのがっしょう」を輪唱しよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなで「かえるのがっしょう」を歌詞や階名で斉唱する。 ・二つに分かれて、2小節ごとの交互唱をする。 ・二つに分かれて、輪唱する。
		2	<ul style="list-style-type: none"> ◇どうしたらきれいに輪唱できるか話し合いながら歌う。 ・みんなで拍の流れにのって輪唱する。 ・ペアやグループで分かれて輪唱を楽しむ。
2	「〇〇かえるの声」を重ねて自分たちだけの「かえるのがっしょう」を歌おう	3	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい「かえるのがっしょう」を聴く。 ・みんなで「〇〇かえるの声」を歌いながらつくる。 ・「〇〇かえるの声」が旋律と合うか、歌って確かめる。
		4 ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・「〇〇かえるの声」を選んで旋律に重ねて歌い、聴き合う。 ◇聴き合った感想を伝えたりアドバイスをしたりする。 ・全員で歌って確かめながら、声を合わせていく。

5 本時の学習

(1) ねらい

旋律とオスティナートを重ね、歌声を合わせるためにはどのように歌えばよいか考えや願いをもちながら歌うことができる。

(2) 展開

学習場面と子どもの取組 (◎は、学びをいかしている子どもの姿)	教師の支援と願い・評価
1. 「ドレミサイン」をししたり、『かえるのがっしょう』を輪唱したりする。 2. 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 音の高さを確かめながら「ドレミサイン」をししたり、拍の流れにのって「かえるのがっしょう」を輪唱したりすることで、中心となる活動につなげる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">「2の2かえるのがっしょうだん」の歌声を合わせよう</div>	
3. 「〇〇かえる」の声をかえながら、次の(1)、(2)、(3)の活動を繰り返す。 (1) 「〇〇かえるの声」を選んで、「かえるの歌」、「〇〇かえるの声」、聴き役の三つの場に分かれて歌ったり聴いたりする。 (2) 歌ってみて気付いたことや思ったことを話したり、聴いていた感想やアドバイスを伝えたりする。 ◎途中で拍にのっていなくてずれているかんじがしたよ。手拍子に合わせてたらどうかな。 ◎「かえるの歌」とぴったり合っていたよ。 ◎音の高さが合わないから、「ドレミサイン」をしなから歌ったらいいかもしれないね。 (3) 伝え合ったことを踏まえて、全員で歌って試してみる。 ◎手拍子に合わせて歌ってみると拍にのって歌えるね。 ◎「かえるの歌」の「うん」(休符)を聴いて歌うとぴったり合うね。 ◎「ドレミサイン」を付けたら音の高さが合ったよ。 4. 2の2の「かえるのがっしょう」を学級全員で歌う。 ・「〇〇かえるの声」を次々と重ねて歌う。 6. 本時の学習を振り返る。 ・最初はぴったり合わなくて難しかったけど、友だちの歌を聴いたり、ピアノを聴いたりするようにしたら、だんだん合うようになってきてうれしかったです。 ・みんなで拍にのって歌えたから、気持ちよかったです。 ・いろんな「〇〇かえるの声」を重ねてみたらどれも違うのに、どれもぴったり合って、拍にのって歌うと楽しいなと思いました。	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じてピアノで伴奏を弾き、拍の流れにのることを意識して歌えるようにする。 オスティナートを先に歌い出してから旋律を重ねることで、音程をつかんでから歌えるようにする。 歌声が合っていないという感想が出た時は、子どもに問いかけることで、なぜ合っていないのか、合わせるためにどうしたらよいか方法を考えられるようにする。 教師からも感想を伝えることで、意欲を高めていく。 全員で歌い方を試して、「かえるの歌」と合わせられるように声をかける。 よくなったところを褒めて意欲を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">— 評価の観点(音楽表現の創意工夫) —</p> <p>旋律とオスティナートを重ね、歌声を合わせるためには、どのように歌えばよいか考えや願いをもって歌っている。 【評価方法】演奏の聴取 発言 ワークシート 支援 手拍子をししたり、教師と一緒に歌ったりして、旋律や伴奏を聴けるようにする。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 声を合わせて歌うことの楽しさをみんなで共有できるように、子どものふりかえりを広げられるようなはたらきかけをする。

(3) 思考力・判断力・表現力の評価

	A	B	C
評価基準	旋律とオスティナートの拍の流れや音程に気を付けながら、歌声を合わせるためにどんなことに気を付けて歌えばよいか考えや願いをもっている。	歌声を合わせるためにどんなことに気を付けて歌えばよいか考えや願いをもっている。	歌声を合わせるためにどんなことに気を付けて歌えばよいか考えないまま歌っている。